第１１号　　2021 年（令和３年）７月 20 日

上高瀬小だより

7月 20 日号

〈発行〉
三豊市立
上高瀬小学校

1学期を振り返って　－コロナ禍の中、感謝一杯の日々－

７月２０日、終業式を行い約７０日間の１学期が終了しました。５月の運動会は残念ながら１１月に延期になりましたが、コロナ禍の中、昨年度と違って学校での学習や行事ができたことをうれしく思っています。(いろいろな制約はありましたが･･･)そして、今日、全校生が元気に１学期を終えることができたのは、たくさんの人たちのご協力があったからだと感謝しています。

〇２０８名の子どもたちに感謝

１学期の始業式に、「頭を鍛える」「体を鍛える」「心を鍛える」の３つのことについて話をしました。まず、「頭を鍛える」については、どの学級も授業中は、先生や友達の話をしっかりと聞いて落ち着いて学習に取り組んでいました。友達の考えと比べたり関係づけたりしながら自分の考えを深めたり広げたりできる子が少しずつ増えています。「体を鍛える」については、全校生が大きな病気や怪我がなく元気に登校してくれたことが何よりもうれしいです。陸上や水泳などで、自分の記録に挑戦する姿も多く観られました。「心を鍛える」では、自分が苦手なことに挑戦したり最後までやり切ったりする姿を観ることができました。気持ちのよいあいさつも広がってきました。２０８名の一人ひとりの確実な成長に大きな喜びを感じています。

〇保護者や地域の皆様に感謝

例年通りに行事等ができなく、いろいろな制約を設けての実施でしたが、温かくご理解・ご協力頂いたことに感謝しています。また、毎日の検温・健康観察、登下校での見守り等、本当にありがとうございました。

明日からは、２年ぶりの約４０日間の夏休みが始まります。変異株コロナウイルス感染症のことが心配ではありますが、健康に気を付けて充実した休みが過ごせるようよろしくお願いします。９月１日の始業式には、全校生が元気に新学期のスタートができるといいなあと思っています。

学年水泳大会

コロナによって生まれた素敵な縁　－蘇州日本人学校との交流－

７月１４日、６年生は、蘇州日本人学校の６年生とオンラインで交流学習をしました。約３０分間、自己紹介をしたりそれぞれの学校や地域の様子を質問し合ったりしました。

今回、蘇州日本人学校と交流を行うようになったきっかけは、「コロナ」と「縁」です。

去年、Ｋさんが上高瀬小学校に来てくれて、上小の６年生はとても楽しい半年間を過ごすことができました。Ｋさんが中国に帰った後も、Ｋさんのことが話題になったり、Ｋさんから手紙が届いたりと、中国と日本、遠く離れていても「友達」という素敵な絆ができました。

そんなとき、その話を聞いた三豊市国際交流協会の方が「Ｋさんを縁に、Ｋさんが通っている蘇州日本人学校６年生と上高瀬小学校６年生と交流してはどうでしょうか。」という提案をしてくださいました。コロナウイルスによって、できなかったことがたくさんありましたが、コロナウイルスによって新しく生まれたこの素敵な縁をこれからも末永く大切にし、継続していければと考えています。

本交流を快く受け入れてくださった蘇州日本人学校の校長先生をはじめとした先生方、６年生の皆さんに、そして、この交流の実現に向け温かく応援をしてくださった保護者や関係機関の皆様に感謝しています。

久しぶりに再会

一人ひとり自己紹介

また、2学期に！

水の大切さを学びました　－香川用水出前授業＆校外学習－

４年生は、社会科や総合的な学習の時間に「水」についての学習をしています。
７月６日には、香川用水管理所の３名の方が出前授業をして下さいました。香川が水不足になる理由をクイズ方式で教えて下さったり、早明浦ダムや香川用水のことを分かりやすく説明してくださったりしました。水を大切にするために自分にできることを考えるよい機会になりました。
また、７月１３日には、香川用水記念公園に行き、実際に「香川用水東西分水工」で、早明浦ダムから流れてきた水を見ました。吉野川の水が阿讃トンネルを通り、流れてきた大量の水を見て子どもたちはびっくりしていました。
香川県民の「命の水」である香川用水について、話を聞いたり実際に見学したりすることで、水の大切さを実感することができたようです。

出前授業

香川用水記念公園

人権学習を通してよりよい学級・学校に　－ 三豊市人権教材資料を使って －

７月に入り、全学級で人権学習を行いました。資料を読み、「おかしい」「いけない」と思う事柄をきっかけにして、差別されたりいじめられたりしている登場人物の気持ちをしっかりと想像し、登場人物を笑顔にするためには、どうすればよいのかを真剣に話し合っていました。具体的な学年ごとの学習内容は、以下の通りです。

１年「かずひろくん」･･･誰とでも仲良くして、困っている友達を助け励まし、やさしい言葉をかけることができる態度を身に付ける。
２年「リレーきょうそう」･･･友達を傷つけてまで勝つことが大切なのではなく、自分や友達を励まして取り組み、みんなが笑顔になることが大切であることに気付く。
３年「山本くんのなみだ」･･･間違いを笑われた山本君の悲しみに共感し、山本君を傷つけたのは田中君だけでなく、一緒に笑った人たち全員であることに気付く。
４年「『やめろ』のひと声が」･･･傍観しているのは加害者と同じであることを自覚し、強い心をもっていじめをやめさせようという態度を身に付ける。
５年「ぼくが何したいうね」･･･資料中の家族の一言がどれだけ周りの人々を傷つけているかに気付き、「ぼく」が今後どのような行動をとっていけばいいかを考える。
６年「なぜ負ける」･･･利害や好き嫌いにとらわれず勇気をもって公正に振る舞い、学級の問題を一人ひとりの問題として解決しようとする意欲をもつ。

人権学習は、学級・学校づくりの基盤であると考えています。友達の悲しみに気付き、その悲しみに共感して共に支え合うことが大切です。そんな学級・学校になるように、教師自身も人権感覚を磨き、「差別を許さない・見逃さない」ように、学習だけでなく、学校生活の中でも指導・支援を続けていきます。